**第４回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年１１月２７日（木）　１０：００～１２：３０

○場所　　メルパルク大阪　３階　フォンテーヌ

（大阪市淀川区宮原４－２－１）

○議題　　将来ビジョンについて

○出席委員等　　更家会長、石川委員、篠﨑委員、平田委員

○事務局　　府民文化部理事　ほか

＜事務局・共同企業体より「資料２」の記載内容説明＞

**石川委員**

「資料２」については、今後、事務局において、８月に取りまとめた中間報告の記載　　内容とのすり合せをしていただく。本日の審議会では、「資料２」の記載内容について　　コメントさせていただく。という理解でよいか。

**更家会長**

そのとおりです。中間報告が基本にあって、この「資料２」に対するご意見を融合させながら、最終答申に向けよいものを採り入れてまとめていくという方向感で、ご意見を　いただきたい。

**事務局**

「資料２」の４ページに、中間報告の概要版を掲載している。共同企業体からは、　　　概要版記載の「具体的な取組み例」についてご提案いただいている。

これまで議論いただいた「基本理念」や「目標像」、あくまでもこれに基づいた具体的な提案であるとご理解いただきたい。

**平田委員**

中間報告以降、さらによい提案が出た場合は、その内容を変更してはいけないのか。　「中間報告の内容は変更しない」というやり方もあるし、「中間報告なので、議論が　　　進めば内容の変更はあり」というやり方もある。

「基本理念」はよいとして、「人と自然の調和」「世界への文化と美の発信」「人々の　　　交流と創造」という、３つの「目標像」まで固定してしまうのか。

**石川委員**

中間報告の時点では、この「目標像」でよかったかもしれない。しかし、万博公園　　　　活性化のためには、共同企業体の皆さんが調査された事項はとても重要。もしかすると、かなり大事な目標になるものとして、今後浮上してくるかもしれない。

資料には、ニューヨークのセントラルパークの事例が掲載されているが、私は、日本の明治時代と同じことをやっているという印象を受けた。当時は、地方自治体が自己責任で公園運営しなければならず、東京府では、公園経営について営繕会議所に諮問を行った。

営繕会議所は１７９２年に老中松平定信が設置した町会所の後身であり、１８７２年における保有財産は、金だけで７０万両。町会所がお金を出して、道路、橋、ガス灯などを整備していた、いわゆる民活。財界が寄附や投資をしていた。

その営繕会議所が、東京府の諮問に対して１８７３年３月１３日付で回答。公園の半分を公園地として整備し、残りの半分は免税地として、酒店、貸座敷などに貸与して地代を集め、経営費に充当することが望ましいという内容。

これに基づいて、浅草公園には仲見世が整備された。東京府は、仲見世からの賃料を　様々な施策の財源として活用した。

上野恩賜公園内には、老舗西洋料理店がある。一流のレストランを公園に入れ、地代をとって公園の運営費に充当してきた。日比谷公園には、有名な花屋さんがある。それらは、　　今では一流企業になっている。

市民ボランティアの育成のみならず、公園から一流の企業を育てていくという手法は、　日本でも行われてきた。万博公園においても、新しい次世代の大阪の力となるような　　ものが、目標の一つになってもよいのではないか。

共同企業体さんが議論に加わったことで、非常に具体的な資料が出てきた。中間報告　にはなかったものであるが、大阪の実態に合わせて強調してもよいと思う。ただし、　　　ニューヨークのまねは駄目。これまで大阪府が何をやってきたのか、歴史をきちんと　　フォローし、万博公園の新しいメニューにしていただきたい。

**更家会長**

「新しい公園経営像を確立する」という項目を、４つ目の目標像としてみてはどうか　考えるがいかがか。

**事務局**

ご審議の結果、そのようにさせていただくことは構いません。

**更家会長**

共同企業体のご提案は、財政的考察が弱い。公園外周部分の土地を活用して、あと　　　１０億円位のキャッシュフローを上げるような仕組みを作って、それを公園整備に　　　充当し公園の価値を上げていく。そういったものは必要と考える。

あと、だれが管理するのかも含め、基金創設の議論は必要ではないか。

**事務局**

中間報告では、収支見通しなどを精査した上で、短期、中期、長期に分けて年次計画を策定することが必要とされている。指定管理制度を導入した場合、どうしていくのかと　いう検討はしなければならないが、基本的には事業者誘致による収入で公園施設を充実　していくということになる。

**更家会長**

外周道路沿いの不動産活用は、ブライアントパークによく似た手法。民間企業であれば、公園運営しながら１０億円位のキャッシュを生んでいこうという目標を立てる。これを　文化や緑の充実に使ってもらわないといけない。いわゆるストックの部分をどう考える　のか、ビジョンにおいて明らかにしておかなければならない。

**平田委員**

更家会長のご意見には賛成。しかし、指定管理者制度を導入してお金を儲けて再投資　するという循環はよいが、儲かったお金は直接指定管理者に入るのか。また、不動産活用を行っても、不動産は府に帰属するのでその賃料収入はどこに入るのか。どこにプール　するのか。

**更家会長**

「資料２」６３ページについて、園内外事業者による売店やレストランは、指定管理者が一括管理する方がよいのではないか。

**事務局**

現状、万博公園事業において基金を設置している。そのため、寄附金や事業者誘致に　　伴う財産貸付料収入などを基金へ積み立てていくことは可能。

また、運営体制については、仮に指定管理者制度を導入すれば、利用料金制の活用など、指定管理者がインセンティブを持って運営できるようにすることは可能。

**更家会長**

「資料２」６３ページで、一般企業や個人からの寄附は大阪府が受け入れることと　　されているが、どのように運用するのか。公園管理運営協議会で行うよりも、その部分　　まで指定管理者に任せてしまう方がすっきりするのではないか。

**平田委員**

私は、売店、レストラン、一般事業者こそが、コンセプトを反映する人たちだと思う。指定管理者ではできないというルールはあるのか。

**事務局**

例えば、大阪城公園は今後指定管理者により運営されることになるが、指定管理者が　公園の施設整備を行い、大阪市に寄附をして、指定管理者が運営するというスキームと　なるので、それは可能であると考える。

**平田委員**

可能であれば、指定管理者が一括で運営する方が望ましいと思う。

**更家会長**

指定管理者に行わせるためには、コンセプトが必要。私は、統括は府が行い、寄附金　　収受も府が行ったほうがよいと思う。

**事務局**

どこまで条件を付して指定管理者を公募するのかということになるので、実務的には　可能であると考える。検討は可能。

**更家会長**

「資料２」６２ページに運営組織の一例が掲載されている。パークレンジャーについて、現状、運営がどうなっていて、これをどのようにしてパークレンジャーに変えていくのかという踏み込んだ考察はできるのか。

**共同企業体**

現在、公園を管理運営している方にヒアリングすると、運営者がボランティアを直接　管理している部分と、園内事業者へ委託している部分があるが、これをパークレンジャーという形でボランティアの育成、統括も含めて委託する。仕様書の書き方次第では、可能であると考える。

**石川委員**

新しい公園管理システムの構築という目標像追加の話が出てきた。積み上げたデータや緑に関する事項は、将来ビジョンをサポートする別添資料として作成されるのか。

**事務局**

そのようにさせていただきます。

**石川委員**

万博公園の特徴であり、大事にすべきところは、何もないところから造り上げてきた　公園であるということ。

イタリアのフィレンツェにはボーボリ庭園がある。人が少なくて静かなところ。一方、フィレンツェの街には、人がいっぱいいて賑わっている。ボーボリ庭園に人がたくさん　来ることがよいのかというとそうではない。

万博公園内のすべての施設において、たくさんの人が来なければならないのかというとそうではない。方針として、人がたくさん来るところと来なくてよいところのメリハリをつけるべき。

「資料２」１６ページには、４９に区分されたセントラルパークの管理エリアが掲載　されているが、非常に巧妙に作られている。公園の造られ方、各ゾーンの特徴、アクティビティーと、この４９ゾーンがどのような理由で区分されたのか、それを検証することが大事。１００年以上に渡る公園の歴史の集積がこれを生み出している。これは単なる区分ではない。もし、万博公園においてこの区分を取り入れるのであれば、公園を５０年　　　かけて造り上げてきたというプライドにかけても、その部分が反映されるものにして　　いただきたい。

万博公園のボランティア活動はすごい。超一流だ。セントラルパークですらそのような活動はない。これは万博公園の誇りとして前面に出すべき。５０年かけて造り上げてきたものに対して、今後の森はこうなっていくべきだというものを、誇りを持って発信して　いくことが重要。

最大の問題は、「太陽の塔」を中心とするシンボルゾーンの整備。私は、「資料２」の　　　３２ページの図を見て驚いた。右上に施設の連携を促す広場の整備として掲載されている写真は、シカゴのミレニアムパークかと思うが、安易にこのような写真を貼りつけることはやめていただきたい。ここにこのようなものを造ったら、今まで、何のために議論してきたかわからない。ミレニアムパークは話題の公園ではあるが、シカゴはシカゴ。

議論を着地させる方向性を、哲学のみならずイメージも含めてきちんと出しておかないといけない。この議論が終わった後、将来ビジョンを引き継いだ担当者が、ミレニアム　　パークのようなものを日本庭園の前に造ることは考えられない。

万博公園では、これまで自然観察学習館などにおいて素晴らしい取り組みが行われて　きた。それは褒めるようにする。そして、駄目なところは集中的に変えていく。そういうメリハリのある将来ビジョンにしなければならない。

**平田委員**

石川委員の仰るように、将来ビジョンは本編と資料編に分ければよいと思う。

４９の区分があるが、「１Ａ」や「２８Ｃ」など、さらに細分化されている。それにはプロセスがあるはず。どのような時系列で４９区分に至ったのか、それがどのように細分化されたのか、今後、１０年、２０年経って、万博公園の管理手法について原点に立ち　　返って議論しなければならなくなった時に、役立つ貴重な資料になると思う。

そして、管理手法について斬新性を求めるわけだから、ブライアントパークやセント　ラルパークの手法はこうであったなど、パークレンジャーに至った背景的な資料については、将来ビジョンの資料編で整備されることを望みます。

**篠﨑委員**

「資料２」は、目線を高くしてブランディングしようという思いが表に出ている気が　する。しかし、これまで積み上げてきた地道な森の再生活動という部分が少し欠けている。既に存在するからということなのであろうが、あまり触れられていない。環境学習の場　など、その辺りはどこに記載されているのか。それとも、資料上さらりとどこかに記載　　されているのか。

将来ビジョン中間報告の７つの基本方針がベースにあって、その上にブランディングのための戦略性をもった取組みを行うものと理解している。

「資料２」の２１ページには、「未来を見据えた創造性を高める機能の追加」の参考　　事例として、ファブラボが挙げられている。これは、万博公園の中に必要なものなのか。

例えば、ボストンで一番のショッピングセンターの中には、ファブラボのモデル　　　ショップがある。ものづくりが誰でもできるという意味ではよいが、それと万博公園を　どのように繋げていくのか。

大阪日本民芸館があるので、それにプラスするという発想をされたと思うが、ブラン　ディングするにしても、話題のものを持ってくればよいというものではない。緑の中に　おいて人との関わりの中で手作り感を作り出していくという視点でいくと、ファブラボは何だろうと思う。少し整理が必要。

ブランディングという視点からやっておられ、非常に素晴らしい提案がたくさんあるが、何でも欲張ってはいけない。万博公園の中というコンセプトからセレクトし、落として　いきたいものもあると感じた。

管理運営手法については、外国の事例をよくお調べになっているが、日本との寄附文化の違いがある。関西経済同友会でもアーツサポートを生み出したが、維持費用の負担で　喧喧諤諤の状況。

セントラルパークを歩けば、ベンチにも地面に貼られているタイルにも寄附がなされている。年末になると、市民は節税対策のためにどこに寄附しようかと必死になられる。　　　それと同じことは日本では考えられない。寄附金のボリュームを先に整理すべきでは　　ないか。

インセンティブを付与すれば寄附は増加すると思うが、そうでなければ、大幅な寄附　金額の増加は期待できないと考える。

**共同企業体**

ファブラボについては、次世代の創造性が養われる機能を少し入れたいと考え、次世代の工芸作家の育成支援という形で、大阪日本民芸館にその機能を持たせて４０ページに　掲載している。ご指摘も踏まえ精査してまいりたい。

寄附については、我々もアメリカと日本の文化の違いを認識。ＢＭＰのモデルを寄附という形でと考えているが、決して多くの財源を寄附で賄おうとは考えていない。

それよりも、より多くの方が公園を見る第三者的なモニター機能を構築していきたいと考えている。最初は寄附が集まらないかもしれない。その対策として、ある程度ネーム　　バリューのあるディレクターが公園の管理をやっていくというニュースとともに、そこに、感動してくれる企業のご協力を得ながら、一緒に公園造りをしていく仲間を増やす。　　そこに寄附という形を採らせていただいた。

あくまでも、もうひとつの第三者的な公園をモニターする組織を得る仕組みとして、　ご提案させていただいたもの。

**平田委員**

ファブラボが万博公園にフィットするのかと同じように、エクストリームスポーツが　万博公園にフィットするのかどうか。

**更家会長**

この段階で具体的になり過ぎると、方向感がそちらにとられてしまう。シンボルゾーンはこの方向性やコンセプトでやりましょうとか、スポーツはこのような考え方でやりま　しょうとか、その程度にしておかないといけない。あまり入り込んでしまうと、そこに　　ひっかかってしまって「そのようにやれ」となってしまう。

**石川委員**

シンプルが一番難しい。いろいろなものを貼りつけることは誰でもできる。一方、　　　捨てることは難しい。

例えば、自分が子どもだったら、この公園にやってきて、どこに行って、どのような　　ものを見るのか。自分がお年寄りだったらどうするのか、海外から来た外国人だったら　どのような行動をするのか。自分がプレーヤーになって検証してみる。資料作成だけではなく、実際にやってみることが重要。ファブラボは誰が使うのか、それがニーズに合ったものなのか、検証してみる。

私は、子どもが一番大事だと思う。子どもを大事にしない社会に未来はない。子どもや子育て世代にとって使いやすい公園なのか、一度検証が必要。そうすると、必要なもの、不要なものが見えてくると思う。

ボストンには、チルドレンズ・ミュージアムがある。そこでは、子どもの無限の想像力を感じることができる。一方で、私は万博公園の自然観察学習館のプログラムには感動　した。可能性がたくさん秘められている。誰が使う公園なのかということを真剣に考えていただいて、今ある膨大な資料を整理していただくと、そぎ落としができるのではないか。

**平田委員**

仮に、１回も公園に来たことがない人に「来させる動線づくり」を行うために、１ヶ月位の期間、アニメフェスティバルを開催すれば子どもがたくさん来ると思う。しかし、　　それは全体の理念、コンセプトに反するのかどうかわからない。

全く異なる理由で子ども達を来させて、意外といいねと思ってもらって来させ慣れる。親も含めて来させる動線づくり、そのような戦略について、どのようにお考えかお尋ね　したい。

**石川委員**

私は、ベーシックな中にいろいろな企画がたくさんある方がよいと思う。そうすれば、新しい人が来る。人は十人十色で。関心事も人によって異なる。がっちりとしたベースがあって、そこに色々なプログラムが貼りついてくるとよいのではないかと思う。

**更家会長**

シンボルゾーンについては、どのようにお考えか。

**石川委員**

ボーボリ庭園では、ヴィスタ（眺望）が通っているところに人が集まる。私には、万博公園では人類の進歩と調和がずっと空の上へ消えていくようなダイナミックな経路を　作ればどうかという漠然としたイメージがある。「太陽の塔」の後ろの方には日本庭園の築山がある。ヴィスタの終点は日本庭園。ボーボリ庭園であれば並木道。セントラル　　　パークであればニレの並木。万博公園にそのようなアイデアが活かされていく。世界的　目線で、なるほどと思っていただけるような空間を造らなければならない。

**更家会長**

創造性を高めるという点では、京都の哲学の道を歩くだけでも創造性が高まる。　　　わざわざファブラボを造ってモノを作らせるよりも、森の機能として落ち着いて制作　　できる環境を整える方が、創造性が高まるのではないか。

**石川委員**

京都の哲学の道ならぬ哲学の森は、おもしろいですね。

**平田委員**

しかし、ここは大阪万博由来の公園。テクノロジーを否定してはいけない。既に、　　　ファブラボの進化形もあるのではないか。大阪万博が原点なので、デジタルも情報通信　技術も、サイエンスというものを世代ごとに違う感性を磨くとか、イノベーションや　　昔のものを大事にする庭園という切り口がむしろ求められていくのではないか。

**篠﨑委員**

サイエンス、技術は否定せず、むしろ、森の中へ盛り込んでいくこともできる。公園に来られた方が、オオタカの姿は見えないけれど、ＩＴでもってオオタカの生態を知る　　ことができるといったことは可能かと思う。手段として利用すればよい。

ご提案のファブラボは、目的になっている。日常でできるものを緑の中という切り口で行うことはどうか、という疑問を提起させていただいた。

**平田委員**

資料では「損を出さない経営」が強く感じられる。売上げが拡大傾向になっていくと　　いうメッセージがほしい。それが大事。

あと、多言語対応も入れていただきたい。樹木の名前を表示する看板ひとつとっても、英語は職員でも比較的容易にチェックできる。しかし、ハングルや中国語となると、この表現が適切なのか、チェックすることは難しい。

**事務局**

多言語対応も進めてまいりたい。

**更家会長**

中間報告と本日の「資料２」は整合を図る必要があるが、事務局において表現を変えるべきところは思い切って変えていただいて結構かと思う。

**事務局**

本日いただいたご意見を踏まえ、中間報告以降に調査を行ったデータについては、資料編として取りまとめ、後世に残していけるようにしてまいりたい。

あくまでも、皆さまに取りまとめていただいた中間報告をベースにするが、本日の　　ご意見等を踏まえて、将来ビジョンを修正してまいりたい。

**石川委員**

万博記念公園にはたくさんのスポーツ施設がある。スポーツに関して将来ビジョンに　どのように書き込まれていくのか、本日議論できていない。

**事務局**

公園のスポーツ施設について、近隣の方の利用が多い中、遠方からの方が多く参加　　される大会を優先的に利用させてよいものか悩んでいる。十分な検討ができておらず、　資料に反映できていないところはある。

大きな方向性として、近隣の人向けとするのか、遠方からの人向けとするのか、それらを両立させるのか、というところのヒントをいただきたい。

**平田委員**

競技スポーツではなく、生涯スポーツであるジョギングやウォーキングなどを、多く　の人が緑の中で楽しむ。あと、フットサルというファミリーもの、男女混合ものをどの　　ようにやるか。

トライアスロンは裕福層の愛好者が多いので、ブランド上もお金上でもよろしいかと　思うが、そんなに奇をてらう必要はない。むしろ、万博公園で現在走っている人の数を　　着実に増やしていく。それによって、近隣住民を射程にする時にはその参加率を上げて　いく。経営手法としていかに斬新性を持つかだと思う。

**石川委員**

健康やスポーツは、公園整備では当たり前とされる項目だが、きちんと盛り込んで　　おかなければならない。

健康やスポーツは、自分の健康維持とそれをサポートするものなので、公園を造るときに地域から要望されて必ず入れる項目。そういうものが、どのように考えられているのか。それは重要なポイント。

近年、皇居ではマラソンを楽しむ人をよく見かける。万博公園も広い公園なので、　　　マラソンを目玉にすればどうか。

**事務局**

マラソン大会については既に実施している。スポーツ施設の再編整備については、　　中間報告の２６、２７ページに記載させていただいているが、さらに、ただいまのご指摘を踏まえ、具体的な取組みとして書き込んでまいりたい。

基本的にサッカー場、野球場、テニスコートなど、既存の施設を充実させるとともに、ジョギングをされている方の利用促進のための整備や、マラソンをされる方の利用促進　などを具体的に盛り込んでまいりたい。

地域の方が生涯スポーツに取り組んでいただけるようなものを具体的に書き込んで　まいりたい。

**篠﨑委員**

２０２１年には、関西各地でワールドマスターズが開催される。そのような大きな大会をうまく活用しながらブランディングしていくことも考えられる。

**石川委員**

中国の公園では、朝から太極拳をされている方がたくさんおられる。万博公園で　　　そのようなものがあってもおもしろい。

**更家会長**

エントランスゾーン付近は、現在、駐車場があって分断されている。それを緑で繋ごうとしているのが「資料２」の３２ページの図であるが、バリアフリーという観点から　　　言えば、現状は公園の中心部に車で乗り付けることができるというメリットがある。　　コストがいくらかかるかわからないが、緑で繋げながらも、地下に駐車場を設置した場合のシミュレーションを行ったり、研究していただければどうだろうか。

**事務局**

今年度審議会で大きな方向性を出していただき、今後、費用などについて精査を行ってまいりたい。

**石川委員**

東京の日比谷公園の駐車場は地下に設置されている。ボストンの公園も地下に設置　　されている。一方、地上は素晴らしいクラッシックな公園となっている。地上はヴィスタを通すという考えを貫いて、現在ある駐車場をどうするのか、というのは検討課題。　　　成功例はいくらでもある。

**事務局**

将来ビジョンとしてこの部分の駐車場については、ヴィスタが通るようにと掲げつつ、短期、中期、長期に分けた年次計画において、事業者誘致で得た収入を財源として整備　　していくという収支見合いで検討してまいりたい。

**篠﨑委員**

その検討のためにも、３１ページや３２ページには断面図を付けていただきたい。

**事務局**

付けさせていただきます。

**更家会長**

皆さん、よろしいでしょうか。それでは、定刻となりましたので、以上で本日の審議会を終了させていただきます。お疲れさまでした。

以　　上